HSK
No. 140
ふきのとう文庫だより
昭和48年1月13日第三種郵便物承認
HSK通巻番号656号
発行　令和８年11月10日
毎月10日発行　定価100円
（維持会費に含む）
編集　〒060-0006
札幌市中央区北6条西12丁目8番3
公益財団法人ふきのとう文庫
電 話（011）222－4839
FAX（011）222－4800
発行人　北海道障害者団体定期刊行物協会
細川久美子

より多面的な「社会性」の強化を目指して

公益財団法人ふきのとう文庫　代表理事　高倉嗣昌

これまで一三九号を積み重ねて来た当文庫の「文庫だより」をひもといて見ると、特に初期の頃には多くの支援者が集い、そこでダイナミックで多面的な活動が展開されているように映ります。

それらのうち、図書館活動、布の本、拡大写本の製作・普及活動、図書館間のプレイルーム（多目的ホール）を使った「読み聞かせ」に代表される行事などは、今日も当文庫の中心的活動として脈々と継続されてきています。

他方「ふきのとう文庫資料館」の開設・運営、小規模作業所の経営、長期入院児のための「病院文庫」や布の本製作グループの横の繋がりを図る「仲間文庫」の全国的な展開、自らの手づくり品を持ち寄り販売するバザー、当時当文庫図書館周辺の環境を生かしたキャンプ、札幌市中心部の商業施設を借りての布の本・拡大写本の展示会などの運営や活動が定着していたのです。

当文庫が専門施設として図書館を持って以来（一九八二年）の大きな出来事は、十三年前の札幌市中央区移転でしたが、その後図書館開館日の倍増（四日）、展示会の自施設開催、施設間多目的ホールを使った多彩なテーマでほぼ毎週開催されているイベント、更に「子育て」領域に入る「ふきのとうこどもクラブ」開設等、活動の質的量的は向上が図られて来た面が多々あるとは言え、そして当文庫活動の初期段階で色々試行されていた面があったにせよ、前述の「ふきのとう文庫資料館の開設」以後に具体的に指摘した活動は、今日殆ど消滅してしまっているのです。

活動の多面性も、当文庫の社会的役割（社会性）を高めるという視野から見ると、活動の固定化、縮小化の傾向を感ぜざるを得ません。

時代の流れから見ると、これまでの活動を直接復活する方向にではないことから、支援して下さる方々を含めた関係者の衆知を集めて、新しい角度からのアプローチが必要なのではないと思います。

現段階で、そうではなくても手一杯なのにこの上新しいことを考えて取り組むのは困難かもしれません。しかし何も大きなことでなくてもいいのではないでしょうか。

そうした中の一つとして、これまで継続して来た交通費まで自己負担の無償ボランティアはとっくに過去

（次ページに続く）



プロフィール

高倉　嗣昌（たかくら　つぐまさ）

一九三七年　札幌生

北海道札幌北高校―北海道大学経済学部卒、経済学修士（北海道大学）

北海道大学教育学部助教授、同医療技術短期大学部教授、北海学園大学経済学部教授、同名誉教授

研究領域　社会教育学・社会学

ＣＯＯＰさっぽろ理事、同社会福祉基金理事長

一九八二年　財団法人ふきのとう文庫と関わりを持ち、同理事、副理事長、理事長（公益財団法人　代表理事）

のものであり、又特に「子育て」部門ではその道の専門家の力が不可欠ですが、今日活動をより活発化するためには、あるレベルの人件費を取り入れて行くこと必須であり、大変重要な課題があります。

それには、いろいろな手立てを考え取り組んで行かねばなりませんが、運営経費の大幅な増加を意味します。

それをカバーして行くには、個人の浄財だけでは追い付かず、これまで当文庫が組織的には取り組んでこなかった企業や団体からの賛助や寄附をいただくことが目下最有力な手立てです。

その具体的方策については、文庫だより一三八号一P下段に書かせていただいてありますが、そこで提示した八項目のうちはじめの四項目については、目下鋭意取り組んでいるところです。

主に個人向けの具体的な支援要請をして来たわけですが、それが企業や団体となると同一ではなく、別の配慮や手続きを伴いましょう。

賛助や寄附を決めるのは個人ではなく組織である場合が一般的でしょうし、なるが故に多くの方々の理解を必要とします。どうすれば実際企業や団体のご支援をいただけるのか、それのより有効な方式を探究して行かねばなりません。当面は平板かもしれませんが、心を込めてお願いをし、受け入れていただくしかないのですが…。

こうした角度からのお願いは単に経済的な側面だけではなく、私共にこそ学ぶべきことが多く、それを反映して行く過程で当文庫の持つ「社会性」を高め、より深い認知をしていただくことで、活動を広く展開して行く大きなチャンスでもあるのです。

私の好きな絵本作家

業務執行理事　杉山　一夫

一三五号で、「はらぺこあおむし」の訳者、もりひさしがガブリエル・バンサンの「くまのアーネストおじさん」シリーズも訳したことを紹介しましたが、今回そのガブリエル・バンサンの「アンジュール」についてお話ししたいと思います。

この本を最初に見たとき表紙の犬にくぎ付けになり、ページをめくってさらに画力のすばらしさとストーリーに感動しました。

郊外を走る家族を乗せた車から犬が放り投げられ、そこからおはなしは展開します。文字は一言もありません。

原題はフランス語で「アンジュール・アンシエン」日本語では「ある日一匹の犬が」になるそうです。もりひさしは日本語の題名をつける際「『投げ出された犬の話』でもないし『にわかのら犬』でもない、じゃあ原題どおりにしようか、でも、それではおかしいから前半の『アンジュール』にしようということになった。そしていつかそのタイトルで通るようになった」と述べています。私はこの犬の名前だと思っていました。



それと、私は長い間作者は名前から男と思っていましたが本名モニック・マルタン一九二八年ベルギー生まれの女性でした。



ただ作家の今江祥智も「顔写真を見る機会がなく、絵の強いタッチから男だと思い込んでいた」と述べています。

彼女は十八歳の時出合った日本の水墨画を手本にしたそうです。水墨画についてバンサンは「すべてを描かずに、その余白から、見る人はそれぞれのイメージを受けてとることができる」と言っています。

「アンジュール」が一九八二年にフランスで出版された時は本名のモニック・マルタンでしたが、日本では先にバンサン名で出版した「アーネストおじさん」シリーズが知られるようになって「アンジュール」もバンサンの名で世に出ました。バンサンの作品はふきのとう文庫にあります。ぜひ手に取ってご覧ください。

フランス最古の児童図書館「たのしいひととき」訪問記

評議員　福田都代

二〇二五年八月二十七日から九月七日まで、久しぶりにフランスに赴いた。目的地はパリとストラスブールである。友人の曾祖父が一四〇年前にストラスブール大学医学部に留学しており、その足跡をたずね、彼の博士論文の所在を突き止めるのが主な目的だった。ストラスブール大学の公文書館は八月末までバカンス中で閉館していたので、前半の日程をパリ滞在にあて、後半の日程はストラスブールでの調査にあてた。

パリに到着した翌日の八月二十八日午後に、かねてから見学を希望していた児童図書館「たのしいひととき図書館（Bibliotheque L'Heure Joyeuse）」を訪れた。この図書館は、セーヌ川左岸のサンジェルマン・デプレ地区やノートルダム大聖堂に近いビルの中にある。一九二四年に開館し、今年で創立一〇二年を迎えるフランス最古の児童図書館である。



当時、第一次世界大戦後で荒廃したパリ市にアメリカの支援によって公共図書館が作られ、本格的な公共図書館活動が始まった。加えて、パリ市には児童のための図書館という専用施設がいまだ存在しなかった。よって、この図書館はアメリカからの戦災地復興支援事業の一環として設立されたのである。

フランスの八月はバカンス時期で、開館の日時を事前に確認するため、あらかじめ図書館側にメールを送り、先方の都合のよい訪問時間帯を伺っておいた。図書館はサンセヴェラン教会という重々しい雰囲気の教会がある狭い通りにあった。到着すると三人の司書が応対してくれ、特に日本語を習っているアニエスさんは帰りに、地下鉄駅まで案内してくれるほど、親切な方だった。残念ながら、ランチ休憩からなかなか戻ってこない図書館長にはご挨拶できなかった。アニエスさんとジャン・ジャックさんの二人の司書が、図書館の各階を説明しながら案内してくれた。この図書館でまず驚いたのはエレベーターで、行きたい階のボタンをその階に到着するまでずっと押し続けねばならなかったことである。ちょうど、訪問時に交通安全の黄色いベストを着た賑やかな幼稚園児の一団がやってきた。フランスでは夏休み中バカンス旅行に連れて行ってもらえない児童も少なくないので、彼らにとって図書館で過ごすひとときは、友だちと共有できる楽しい時間なのだろう。

図書館のスペースは三階部分を占め、多目的ホールは整理中で、段ボール箱が雑然と置かれていた。地下の書庫には、子ども達の親世代が読んできたような一九八〇年以前の児童書を収蔵していた。開架書架に出している絵本は、ほとんどが二〇〇〇年以降に出版された。古い貴重な児童資料は、セーヌ川から離れたパリ東駅に近い場所にある「フランソワーズ・サガン・メディアテーク」に保管されている。万が一、セーヌ川が氾濫しても、資料の保存に支障がないよう配慮されている。

ふきのとうの布の絵本「みにくいあひるのこ」をお見せすると、カウンター担当のナドゥさんまでも仕事の手を休めてやってきて、とても完成度が高いと三人とも感嘆して見てくれた。パリの子ども達がふきのとうの布の絵本を楽しく手に取ってくれることを願ってやまない。

新しい拡大写本できました。

- **おばあちゃんのおにぎり**
  さだ　まさし　作
- **みけねこレストラン**
  竹下　文子　作
- **おくりものはナンニモナイ**
  パトリック・マクドネル　作
- **こども免疫教室　全２冊**
  石原　新菜　著
- **シャーロック　ホームズ　全２冊**
  コナン・ドイル　作

上半期　決算報告

四～九月収支報告は大変厳しい到達点となりました。

賛助会費収入では個人会員として予算進行にありますが、法人会員は予算乖離が大きく今後の取り組みが重要になります。

寄付金および助成金も不足しており、共同募金（赤い羽根募金）の遅れも影響しております。

支出は節約運営で推移しており、昨年九月同月比では▲三十％のコスト削減を進め、人件費／消耗備品等の削減にあります。

収支内容は、四～九月期累計では▲二〇六万のマイナス計上となっておりますが、実質六十六万にあり、収入対策と節約運営が大切になっております。

中心課題は資金調達

代表理事代行　二通　諭

私は、二〇二五年度からふきのとう文庫（以下文庫）の代表理事代行として、文庫が直面している課題にかかわってきました。課題の中心は資金調達です。

二〇二六年度の文庫の財務状況は、このまま推移すると、赤字決算を余儀なくされます。先輩諸兄諸姉によれば、赤字決算という事態は、文庫史上初めてのことのようです。これは、二〇二五年度をもって、三年限定の日本財団・子ども第三の居場所助成が終了したわけで、昨年度から想定されていたことです。

したがって、昨年度から、赤字を抑制する手立てを検討し、一部は具現化してきました。文庫の歴史と現在の活動を紹介する動画（ＤＶＤ）や、賛助会費や寄付を呼びかける二種類のチラシを作成し、多くの個人、団体、企業に支援を訴えてきました。

このような局面で重要なのは、各自ができることをやってみる、ということです。私の場合は、教育研究活動、自主上映活動の推進者であるという特性を活かし、上記宣伝物などを駆使しながら、折にふれ支援を呼びかけてきました。若干ですが、効果がありました。

また、理事数名によって、団体、企業への助成金申請を進めているところです。賛助者、賛助団体、賛助企業を募る活動として、過去の協力者へのアピール、これまで呼びかけたことのない団体、企業への要請行動にも取り組んでいます。

今年度は、北海道共同募金会（赤い羽根）の使途不明二・五億円という事態が、文庫にも暗い影を落としました。これについては全容解明に至っていませんが、文庫としては、大局的な見地から、これまでどおり街頭募金活動に参加しております。

皆様におかれましては文庫へのお力添え、引き続きよろしくお願い致します。

収支計算書

令和８年４月１日から９月30日

（単位：円）

収入の部	予　算	前月末まで	前期決算	前々期決算
１．賛助会員収入	4,000,000	1,985,000	2,471,000	2,044,000
①　個人賛助会員	2,000,000	1,517,000	1,723,000	1,758,000
②　法人賛助会員	2,000,000	517,000	748,000	286,000
２．寄附金等	4,000,000	1,055,880	2,996,280	3,817,068
①　寄附金	2,000,000	655,880	2,296,280	3,417,068
②　その他助成金(こくみん共済)	1,500,000	400,000	400,000	400,000
③　読書推進協議会ほか	500,000	0	300,000	0
３．助成金	3,800,000	1,146,000	9,260,000	60,014,130
①　共同募金会配分金	1,400,000	0	1,400,000	1,400,000
②　道新福祉基金	100,000	100,000	100,000	100,000
③　コープ共済・日本財団	1,300,000	746,000	6,760,000	8,180,000
④　日本財団　増床助成	0	0	0	50,000,000
⑤　日本生命財団	0	0	0	334,130
⑥　その他(団体・馬主)	1,000,000	300,000	1,000,000	0
４．事業収入	2,000,000	1,043,740	2,267,430	1,967,110
５．雑収入	630,000	4,646	56,311	4,623
６．こどもクラブ利用料	0	50,000	0	0
当期収入合計	14,430,000	5,334,266	17,051,021	67,846,931

・賛助会費　個人　255件（新規１件）　法人　16件
・寄附　37件（COOPこくみん共済　40万円）

（単位：円）

支出の部	予　算	前月末まで	前期決算	前々期決算
１．管理費　計	11,460,000	5,934,571	13,262,894	13,776,663
２．事業費　計	2,970,000	1,456,415	3,598,014	53,247,052
①　図書運営費	620,000	268,608	578,777	621,763
②　布の本制作費	1,300,000	631,913	1,774,837	1,539,543
③　拡大写本制作費	250,000	92,730	262,169	256,015
④　第３の居場所	0	0	0	0
⑤　研修費	20,000	0	33,628	16,120
⑥　機関誌発行	480,000	305,125	559,722	411,541
⑦　子ども催事費	50,000	40,587	67,929	71,030
⑧　展示会開催費	50,000	0	50,000	50,000
⑨　普及・販促活動費	200,000	117,452	270,952	177,600
⑩　増床関連費	0	0	0	50,103,440
当期支出合計	14,430,000	7,390,986	16,860,908	67,023,715
当期収支差引額	0	－2,056,720	－190,113	823,216

こどもクラブ活動報告

運営リーダー　星野　康

日本財団の助成が終わり、七月よりふきのとう・こどもクラブを利用する際に若干の協力金をお願いすることとなりました。「居場所が欲しい」と思っている子ども達が気軽に集まれる場所なので、少額とはいえ利用料金をいただくことに抵抗がないわけではありません。それでも、食材の寄贈や民間から活動への助成もあり、外へ出かけるイベントを実施してきました。八月は「動物園を探偵しよう」で円山動物園に出かけました。十月は余市教育福祉村・ふれあい農場でサツマイモ堀りをしました。来月十一月には「本郷新記念彫刻美術館を探偵しよう」の企画も立てています。また、十月のハロウィンは、カレーライスを食べる予定です。文庫に関わりのある皆さんには、こんな「素敵な居場所」があることをぜひ知らせていただきたくお願いします。





秋晴れの恵みを楽しむ！余市での農業体験

ふきのとう・こどもクラブスタッフ　林　奈津子

一、絶景ドライブで余市へ

十月四日はふきのとう・こどもクラブの「秋のイベント～農業体験～芋掘りに行こう」でした。当日は前日までの雨もすっかり上がり、絶好の農業体験日和となりました。クラブで受付を済ませた十一家族・スタッフ総勢三十八名は、全員揃ってバスに乗車。年間八十日以上道内を周るベテラン運転手さんの安心な運転のもと、一路余市へ。空も海も山も美しい景色に囲まれ、車内は家族や友達同士のおしゃべりとワクワク感でいっぱいに広がっていました。





二、グループに分かれてのサツマイモ掘り

余市教育福祉村・ふれあい農場に到着後は、芋掘り体験。「紅あずま」「シルクスイート」「紅はるか」の三種類を収穫しました。子どもたちがつるの根元を優しく手で掘ってサツマイモの頭を少しのぞかせたあと、大人が剣先スコップで土を起こします。「優しくね」「うんとこしょ、どっこいしょ」とみんなで声を掛け合いながら、軍手をはいた手で一生懸命に収穫。「すごーい、大きいね！」など笑顔と歓声があがりました。大きなミミズやカメムシ、セミの抜け殻など、虫採りを楽しむ子どもたちの姿も見られました。

三、「のぼりの丘」の栗拾いとパノラマビュー

芋掘りが一段落したあとは、みんなで栗拾いへ。農場内にある「のぼりの丘」の栗の木を目指しました。少しきつい登り坂でしたが、丘の上から望むシリパ岬や海岸線、ぶどう畑の美しい景色に、誰もが心奪われる素晴らしい時間を過ごしました。



四、ニトリ観光果樹園でのお楽しみおやつタイム

たくさん体を動かしたあとは、ニトリ観光果樹園へ移動してお待ちかねのおやつタイムです。子どもたちは冷たいソフトクリーム、大人たちは余市のリンゴを使ったアップルパイを堪能しました。敷地内に新しくオープンした恐竜パークのフェンス越しにはティラノサウルスも顔をのぞかせていましたが、心もおなかもすっかり満たされた子どもたちは、のんびりと穏やかなおやつの時間を楽しみました。

自然豊かな美しい景色に触れ、みんなで協力して収穫の喜びを分かち合う、心に残る充実した一日となりました。

賛助費、寄附、寄贈ご芳名・行事一覧

2026年7月以降賛助会費納入一覧

飯尾　良英　五十嵐直子　今村　裕志
宇井三喜子　大嶋　里佳　オサナイサトミ
鍛治紀美子　加藤　博己　鎌田　勇一
斎藤　勝二　斎藤　聖子　櫻井　彩子
島田　紘　島田小夜子　下村　笑子
神内　紀子　頭川　恵子　瀬戸田光枝
平　照治　髙倉実枝子　宝本　凌真
宝本　英明　宝本　博雄　宝本　昌紀
宝本　陽子　瀧澤　颯大　田野中房枝
栃内　香次　中田こずえ　中村　美絵
野田　龍一　羽磨　尚實　林　規子
林下　栢子　原田　宏子　広田まゆみ
藤島　亮一　藤田　宮子　星野　フサ
三浦　育子　三上　節子　森永美恵子
八島　昭雄　横山　勝正

法人賛助会費納入一覧

（株）田中組　代表取締役　川島　敦
赤レンガライオンズクラブ
勇建設（株）
岩見沢友の会
東札幌眼科
リコージャパン（株）

2026年7月以降寄附一覧

（個人）

飯塚　卓治　宇井三喜子　大内　和子
太田　裕子　大野　信道　大野　恵
オダフミヒデ　柿崎　香　カメジロウ
櫻井　彩子　シバヒナコ　匿名
中村　野崎　康子　村田　一枝
門馬　公正

（団体）

（株）トーハン
石狩市民図書館内・布絵本サークル「にじ」野崎康子
こくみん共済ｃｏｏｐ全労災
札幌子どもの本連絡会
生活クラブ生活協同組合
全障研札幌サークル

2026年7月以降寄贈一覧

7月2日　童心社　児童書　1冊
7月15日　童心社　絵本　1冊
8月14日　攪上　久子　書籍　1冊
8月16日　学研　児童書　1冊
8月26日　童心社　絵本　1冊
9月1日　学研　児童書　1冊
9月16日　中央会計　杉下清次　乳製品他
10月9日　童心社　絵本　2冊
10月19日　勇建設（株）　絵本　25冊
10月25日　童心社　絵本　1冊

2026年7月以降行事一覧

7月5日　二胡演奏会
7月7日　運営会議
7月12日　うたう会
7月14日　石狩市民図書館　見学9名
7月15日　専門学校北海道福祉保育大学　学生22名・教員1名
7月19日　おはなし会
7月26日　トトロおじさんバラエティーショー
7月28日　運営会議
8月2日　ポロカリーノ演奏会
8月10日～12日　第45回全国学校図書館研究大会
8月16日　おはなし会
8月23日　井上美豊子と楽しもう
8月25日　運営会議
9月2～3日　第66回北海道図書館大会
9月12日　ミニ大通誕生祭・読み聞かせで参加
9月13日　うたう会
9月20日　おはなし会
9月27日　人形劇「ひよっこ」
10月6日　理事会
10月11日　アンサンブルフラテ演奏会
10月17日　北海道視覚支援校学校祭　布・拡大写本展示
10月18日　おはなし会
10月25日　評議員会

―― 布の本テキスト・材料セット価格表 ――

材料セットには作り方説明書を同封しています。

テキストNo	布の絵本	テキスト	材料セット
11	かくれんぼだあれ	200円	販売終了
12	MY BOOK	200円	5600円
	このいろなあに		6500円
13	のりもの	200円	2700円
	だれのうち？		5600円
14	Greeting	200円	5100円
	おやつ		2900円
15	おかあさん	200円	5100円
	どうぶつ		3000円
16	まる	200円	5600円
	むし		3700円
17	ちいさいおおきい	200円	5100円
	さかな		2900円
	わっ！	なし	2900円
	ドレミのうた	なし	販売終了
	ばあ！	なし	3700円
	どんぐりころころ	なし	7400円
	おむすびころりん	なし	9400円
遊具	ジャンケンサイコロ	なし	600円
遊具	やさいセット（8種）	なし	600円
遊具	くだものセット（7種）	なし	500円
	どうぶつとなかよし	なし	2700円
	おいしいね！	なし	2700円
	おはな	なし	販売終了
	のりたいな	なし	2700円
	うみのともだち	なし	2700円
	とりのなかま	なし	2700円
	どうぶつだいすき	なし	2700円
	とり	なし	2700円

ボランティアさんの思い

図書ボランティアに参加して

太田　育枝

火曜日のボランティアはそれぞれに役割が決まっていて、私の担当は書架の整理と本のご案内です。

利用者さんからは「こんな本を探している」とご相談をいただくこともあり、記憶と書名カードを頼りに探したりもします。

印象深かったのは開口一番「ちょうちょ！」と嬉しそうに話しかけてくださった、三歳くらいの女の子の利用者さん。ちょうちょが出てくる絵本を何冊かと、小さい子でも一人で読める図鑑をご案内したところ、利用者さんは図鑑を抱えて親御さんに報告に行きました。

他にも、以前読んだという記憶を伺って思い出の本探しをしたり、「子供の教育にいい本」というなかなかの難題を持ちかけられたこともありましたっけ。

なんでもネットでモノ探しができる時代。それでもこのふきのとう文庫を利用してくださる方のために、使い勝手のいい図書館ボランティアを目指したいです。

ボランティア活動の喜び

布絵本ボランティア　白山恵利子

始める前は、ボランティアなんだから「好きな時間に行って縫い物を手伝って帰る」、自宅も徒歩圏内なので、「行きたい時に行けばいいし」と思っていました。でも、実際はちがっていました。ふきのとう文庫の建物の二階にある作業場では、月に何度か集まって主に材料の準備や種分けを行うだけ。それを自宅に持ち帰って、縫う作業は自宅で行います。最初にリーダーの方が「家事の合間に縫うんじゃなくて、縫っている合間に家事をする感じですよ」と冗談半分におっしゃっていました。そこまではいかないにしても、少しずつ縫える物の幅も広がり楽しくなってくると、つい時間を忘れて熱中してしまいます。案の定、肩こりに加え、持病の腰痛が悪化したり、ばね指の症状が出たりと体が悲鳴を上げることもありました。それでも、何か形になるものを創造するという喜びは大きく、「ものづくり」が大好きな私には、こんなボランティア活動に参加できて本当に良かったと思います。他のボランティアの皆さんと交流するのも楽しく、気持ちにも余裕が生まれました。退職後、コロナ禍で停滞気味だった生活がこのボランティア活動を始めて一変、仕事とはまた別の充実感を味わっています。

拡大写本グループ　三ツ橋知子

三十年以上前、平和のふきのとう文庫で、うちの子どもたちは、本を借りたり、布の絵本で遊んだり、工作会に参加したりしていました。まつぼっくりのミニツリー作りや、和紙の折り染めなどなつかしく思い出します。その頃、いつかお手伝いしたいと思っていました。その後、「ハリーポッター」の拡大本作りを手伝わない？と誘われ、それ以来、二十五年、拡大写本作りをしています。

大きな文字で、横書きした本を、十数人で分担し、選本に悩み、製本を工夫しながら、手作業で作っています。

この活動を通して色々な本と出会う事ができました。そして、いっしょに活動する、仲間と出会えました。

だれでも、気軽に、手にとって読む事ができるよう、色々な種類の拡大本を作り続けていきます。

支援校の文化祭

理事　山本　淳子

十月十七日（土）札幌視覚支援校の文化祭にて布の本と拡大写本の展示を行ないました。

今年から文化祭の時間帯に変更があり、展示は午後からの二時間半になりました。その間に読み聞かせの会を二回行ない、布の本担当・神山さんのエプロンシアターと大型絵本の読み聞かせがありました。今回初めての試みでしたが幼児から大人の皆さんまで絵本の楽しさを味わってもらえたかな？と思います。布の本を一ページずつさわって読み進んだり、布のくだものの皮むき体験など…また、拡大写本は展示した大きな字の本（十五冊）を寄贈本として学校にお渡ししました。短い時間でしたが生徒さんもたくさん参加してくれて、充実した時間を過ごすことができました。準備をしてくださった「あいさぽ」の阿部先生をはじめ皆様ありがとうございました。

◆布の本・拡大写本　展示会

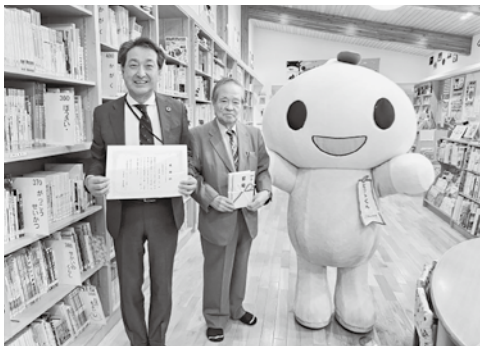
九月六、七日の二日間「布の本・拡大写本」展示会が行われました。大人三十七人、子ども三十八人の皆さんが楽しい時間を過ごしました。展示会に合わせて「エプロンシアター・パネルシアター」も行いました。普段見たり遊んだりできない布の遊具がたくさん展示され子ども達はとても喜んで遊んでいます。親子で魚釣りをしたり、玉入れ、ケーキ作り、キャッチボールで楽しんでいました。パネルシアターは「ごちゃまぜカメレオン」エプロンシアターは「みにくいアヒルの子」全てフェルトなどで手づくりされています。とてもリアルなカメレオンや白鳥なので、紙の本に無い暖かさがある読み聞かせとなっています。来年も開催する予定です。貴重な布の本も展示されるので、ぜひ遊びにきてください。



こくみん共済が(公財)ふきのとう文庫に寄付金四十万円贈呈

こくみん共済ｃｏｏｐ（全労済＝全国労働者共済生活協同組合連合会）北海道推進本部（札幌市白石区）と北海道・東北統括本部（同）は二〇二六年十月十三日、公益財団法人ふきのとう文庫（札幌市中央区北六条西十二丁目八―三）に寄付金四十万円を贈呈した。

この日、ふきのとう文庫で寄付金の贈呈式が行われ、こくみん共済ｃｏｏｐ北海道推進本部の藤盛敏弘本部長からふきのとう文庫の高倉嗣昌代表理事（北海学園大学名誉教授）に目録が贈呈され、高倉代表理事は藤盛本部長に感謝状を手渡した。藤盛本部長は、「皆さま方の活動の尊さを改めて実感させていただいた。ボランティアで来られている皆さまに、心より敬意を表したい」と挨拶した。高倉代表理事は「運営に関わるご支援をいただく機会が少ないのが実状で、ご支援をいただけることは大変ありがたい」と話した。こくみん共済ｃｏｏｐは、二〇二二年から同文庫に寄付金を贈呈、今回が五回目となる。



あとがき

ふきのとう文庫の運営は、子どもたちの健やかな成長を願う多くのボランティアさんの思いに支えられています。図書の貸出管理・読み聞かせ会・イベント・布の本と拡大写本の製作、こどもクラブの運営、花のお手入れなど多岐にわたります。退職後の社会活動として、仕事をしながら、何かお役に立てるならとの思いがあふれています。障がいのある子も元気な子も「本のよさ」を知ってもらいたい願いは一つです。先日も図書館を訪れる方々から文庫活動が50年以上も続くことに驚嘆いただき、素晴らしい活動に参加できていることに感謝するのです。

横澤　記

編　集　公益財団法人ふきのとう文庫
代表理事　髙　倉　嗣　昌

〒060-0006 札幌市中央区北６条西12丁目８番３
☎ 011－222－4839　FAX 011－222－4800
http://www.fukinotou.org
E-mail:fukinotoubunko@ceres.ocn.ne.jp
令和８年11月10日　発行
毎月10日発行　定価100円（維持会費に含む）

昭和48年１月13日　第三種郵便物承認
HSK通巻656号
発行人　北海道障害者団体定期刊行物協会
細　川　久美子

郵便振替＝02720-3-2300　銀行口座＝北洋銀行本店営業部普通預金　0035764　公益財団法人ふきのとう文庫

この機関誌は、“北海道共同募金会の配分”により刊行しています。
維持会員・寄付者のみなさん、ありがとうございました。